

会 議 記 録			
会議の名称	予算特別委員会（全体会）		会議場所 全員協議会室
			担当職員 鈴木
日 時	令和2年3月17日（火曜日）	開 議	午後 1 時 3 0 分
		閉 議	午後 3 時 1 5 分
出席委員	◎福井 ○竹田 長澤 三上 富谷 浅田 大塚 平本 田中 並河 山本 木村 赤坂 三宅 松山 小川 奥野 小松 藤本 木曾 西口 菱田 石野 <齊藤議長>		
執行機関出席者			
事務局出席者	山内事務局長、井上次長、船越副課長、鈴木議事調査係長、佐藤主任、山末主査		
傍聴	市民0名	報道関係者0名	議員0名（－）

## 会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

〔福井委員長 開議〕

〔事務局長 日程説明〕

### 1 予算審査

#### （1）分科会委員長報告（報告、質疑）

〔報告〕

〔山本委員（総務文教分科会委員長）分科会審査報告〕

〔並河委員（環境厚生分科会委員長）分科会審査報告〕

〔菱田委員（産業建設分科会委員長）分科会審査報告〕

〔質疑〕

なし

1 3 : 4 6

#### （2）委員間討議

<三上委員>

総務文教分科会において委員間討議を実施した。これを踏まえいくつか申し上げたい。

<福井委員長>

論点を明確にしていきたい。

<三上委員>

かめおか霧の芸術祭の文化振興経費については、附帯決議も出されている。市長質疑にもなっており、そこで愕然としたのは、非常に中身が分かりにくいことである。市民の皆さんが言われるのもよく分かったと思った。市長自身が、いろいろな事態になったときに、真っ先に切られるのはここだというニュアンスで言われたことに、とても愕然とした。それが重点施策として出てきていることへの疑問もあったので、この件については、議会としてそれでよいのかということを感じている。また、同じく附帯決議の中身にもなっ

いる、ふるさと学習推進経費の予算については、「わたしたちのまち亀岡」という社会科の副読本の作成経費として160万円ほど上がっており、その倍の額を使い、バスで大河ドラマ館に行くというものである。委員長報告にもあったが、そこに至る経緯で、すでにドラマ館のチケットを配っているということすら、理事者間で認識が違った。そのお金は、市を経由していないかもしれないが、市を経由しているのであれば、何らかのお金の動きがあったはずである。寄附があったことも含め、総務文教分科会でも出てこなかった。市長質疑になっているようなことが、あんな形で中断せざるを得ないような、理事者の対応そのものに、私は議会として一言言わなくてはいけないと思っている。何よりも、あの経費そのものが、本当に必要なのかという声が非常に多くあった。これも重点施策になっており、私は疑問に思っている。以上2点について、委員間討議できればと考えている。

<福井委員長>

ただいま三上委員から2点出された。この点について、委員間討議を行いたいと思うが異議はないか。

(異議なし)

<福井委員長>

まず、霧の芸術祭について、中身が分かりにくいこと。また、昨日、市長は真っ先に切られるのはここではないかと発言された。施策としての位置づけがある中で、どうかという意見である。意見をいただきたい。

<木曾委員>

霧の芸術祭については、総務文教分科会で附帯決議になった。特に、市民理解がなかなか進まないところに問題があると思う。また、2,200人ほど来られた中で、市民アンケートについては、わずか75人からしか取られておらず、真意を図りかねないことが一番問題ではないか。それにもかかわらず、増額されていることについては、いささか問題がある。指摘要望されたと思っているが、総務文教分科会だけでなく、議会としての認識が必要になってくる。予算編成する中で、そのことは非常に大事なことだと思う。私としては分科会だけでなく、議員でお互いに自由な議論をする中で、この部分の附帯決議の重みをしっかりと、総意の中でやる必要があるのではないかと思う。

<三上委員>

先ほど項目を上げる中でも言ったが、委員の発言そのものをどうこう言うつもりはないが、各委員からもたくさん発言があった。さらに充実した事業になるようにと締めくくられている委員もいた。その真意を共通認識しておかないといけないのではないか。例えば、より市民に分かりやすく、予算を使わなくても目標に近づくようなものにしていくべきという意味の充実であるのか。芸術と農業、アートと農業、環境とアートのように、コラボしていくことで、どんどん広がってきている。この霧の芸術祭を本体として、いろいろなことに事業を拡大していくことも考えられる。前者であれば分かるが、後者のようなことであると、際限なく広がっていくことも考えられるので、皆さんはあの事業そのものを、どういう方向に持っていけばよいと考えられているのか。私は持続的にやるのではなく、はっきりと年限を切ればよいと

思うがどうか。

<赤坂委員>

私も霧の芸術祭の内容や意味、コンセプトがなかなか分からなかった1人である。今回、新型コロナウイルスの影響もあり、どこも打撃がきついということもある。この予算が上がっているのは間違いだと思う。イベントとしての霧の芸術祭の構成をしっかりと考える。こういう事業は、本当はスポンサーからお金をいただき、やっていくものだと思っている。亀岡は霧のまちであり、こういうことをやっているということを、しっかりと市民にも理解してもらえるようにすべきである。アンケートは2,000人の中で70人程度にしかできなかった。楽しいものを見ると、アンケートも自分から書こうという気になる。そういうイベントの構成も考え、低予算でしっかりつなげていく。そしてもう一度見直ししながら、続けていくかどうかを決めたいと思う。

<福井委員長>

指名して申し訳ないが、私の記憶では、昨日の市長質疑のときに、最後に「頑張ってください」と言われた富谷委員に、どのように思っているのか聞きたい。

<富谷委員>

私は何もメールを送ったつもりはない。霧の芸術祭について、まちづくりにアートを持ってくることは、すごく斬新だと思う。スポーツであれば、オールマイティに皆さんに理解いただけるが、不透明なアートということで、市民の理解は少し得にくいかとも思っている。無理やりアートを、農や観光にくっつけているような感があり、私も少し心配している。予算も期限も上限を決める方向でやっていただければよいと思う。京都府がスタジアムを建設し、スポーツのまちづくりに市長は力を入れているのに、今度はアートである。いろいろなことに広げすぎではないか。1つに絞って頑張ればよいと思う。どちらにしても、予算も期限もつけてやるべき事業だと思う。

<大塚委員>

私は、言葉で「頑張って」と言っていないかもしれないが、どちらかというところ頑張りたいという思いで昨日は発言した。今年度の予定の中に、城下町エリアにも広げるという話があった。今までは千歳町とギャラリーかめおかで実施され、限られた部分での発表であった。地域を広げるということは、若い芸術家にも発表する機会が広がるということであり、市長が考えている芸術の本質の部分かどうかは分からないが、より多くの市民の皆さんの目に触れる機会が増えるということになる。また、地域の活性化に関して、城下町の商店街がだんだん廃れていく中で、空き店舗や商店街を利用しながら、発表の場をつくってもらえることは非常によいと思った。

<平本委員>

昨日は、この件について質疑していなかったが、委員から意見が出ていたように、一般の市民には、なかなか浸透していないのが事実である。私も現場へ行ったが、実際参加されている人は若い人であり、皆さん積極的で、非常に熱意も感じた。その場の雰囲気としては盛り上がっていたと思うが、今回の芸術祭に接点のない人からすると、何をやっているのかまったく見えないということも聞いている。そういった意味で、今回はこれが第1回目とい

うこともあり、何が課題で何を改善していかないといけないかをしっかり分析いただき、継続するのであれば、もう少し実のある、成果の上がる事業にしていきたい。先ほどから意見が出ているように、いつまでもずっと続ける事業ではないと市長も答弁されていたが、明確に計画性を持っていただきたいと思う。

<菱田委員>

私も霧の芸術祭に参加した。芸術という名がつくと、どうしても立派な焼き物が置いてあったり、書があったり、絵が飾ってあったりという固定観念で参加した。しかし、そうではなく、若い皆さんのいろいろな発想で取り組まれている感じがした。そういう意味で、実行委員会形式でやられていたと思う。今回、いろいろな切り口でやられたということだが、先ほどから出ているように、この事業については、税金を投入するのは3年くらいにして一定整理し、あとはやりたい人がやりたいように、いろいろと工夫してやっていただくことが大事である。その入口として、行政が関わるのがよいのではないかとということである。もう1点は、アンケートは十分とれなかったが、一定の結果もあるので、そこはPDCAでしっかりチェックして、来年に移していただくようお願いしたい。

<松山委員>

芸術祭に関しては、市民理解が得られていないかもしれない。実際、行政に近いところにおいて審査している委員であっても、あれだけ市長の意見を聞かないと、なかなか自らに落とし込めないのではないかと。私は、昨日審査して感じた。その中で、行政がゴールという言い方をしたが、この芸術祭を実施することで、どうなればよいかということが、私にはまったく見えない。先ほど赤坂委員も言われたが、スポンサーに関するきっかけを行政がつけることが必要である。私は、継続してやる必要はないと思う。4年やっているが、市民の理解がなかなか得られていないのであれば、これから先も浸透させるのは難しいと思う。

<木曾委員>

霧の芸術祭が出てきたときから、私は指摘してきたつもりである。年々その予算が増えおり、指摘していたことを、なかなか飲み込んでもらえていない。その割には、いろいろな場面に広がっている。環境、教育、観光等、いろいろなことにコンセプトがあり、今度は城下町までいってしまうことになる。本来、城下町のまちづくりは、また違う観点でやっていかなければならない。それを入れることになると、この霧の芸術祭をすべての行政の中に落とし込んでいかないと、できなくなるという危険性がある。そこは歯止めをかけたおかないと、なかなか難しい状況になってくる。霧の芸術祭をしてはいけないと言っているのではない。一定の広がりが出ており、芸術家の掘り起こしもできてきたので、今年度の当初予算で締めて、次につなげ、新たな芸術家発掘のための予算を組むのがよいと思い議論させていただいた。総務文教分科会の委員については、こういった議論をしているので、分かっていたと思うが、否定ばかりするのではなく、前向きに考えて、それが市民福祉増進につながっているのかということに視点を置いてやっていく。市長が最後に、厳しい財政状況になったときは、これはやむを得ず、事業としては見送らなければならないと発言されたことを思うときに、一定の区切りをつけ

ていく事業だと思う。

<藤本委員>

この間も言ったが、霧という亀岡のテーマを1つのコンセプトとして、環境とアート、また農業までを含め、イベント化して市民に広げていく行事である。そこで大事なのが、この芸術祭の目的をはっきりさせておかないと、町屋も城下町も古民家も、霧と何の関係があるのか。そのコンセプトが分からなくなる。市民文化祭や市美術展もあり、これらには中学生も出品している。教室をやっている人もいる中で、これに予算がほとんどつかないのに、霧の芸術祭だけ特化して予算がついているというのは、いかがなものかと思う。芸術としての作品レベルを競うものではなく、単なるイベントとしてやる芸術、感性に訴えているだけのイベントである。どちらかという、学園祭、文化祭に近いような考え方のものであり、芸術祭としての目的をもっと明確にして、市民にも分かりやすくすべきである。これ以上広げると無限に広がる。霧や環境もすべて芸術と言い出したら、きりがなくなるので、そうなればもう訳が分からなくなる。一定の予算の枠組みと、芸術祭の目的を明確にした方がよいと思う。

<小川委員>

霧の芸術祭に関しては、そもそもの始まりについて市長がきちんと伝えなければならぬと思う。そのコンセプトを守っていかなければいけない。その中で、若い実行委員たちが、いろいろな意見を出して、今少し膨らんできており、こういう予算になってきたと思う。市民には、なかなか見えない点があったと思う。ターゲットイヤーとして、2020年は多分、霧の芸術祭のピークのときだと思う。今後は、附帯決議を出されたように、経費を増額しないように私たちが見ていきながら、若い人たちと地域で、この芸術を広めていき、文化力というのであれば、それを高めていくような事業にしてほしいと思う。基本は、あまり膨らまさずに、いろいろなことに整合するような事業にしてもらいたいと思う。

<福井委員長>

次に、ふるさと学習経費についてである。大河ドラマ館へ全員が行くことになるが、そこに至る経緯が曖昧であり、昨日の理事者対応についても統一感がなかった。それだけの事業効果が本当にあるのかという提案である。意見はないか。

<三宅委員>

大河ドラマ館のチケットを配ることについては、この間の理事者側の話を聞いていると、各部署がそれぞれの思いでやっており、それを調整できていないことがはっきりしたと思う。結論から言うと、おのおのでやってきている現実があり、それを予算化していくことの理不尽さ、不透明さについては、あらためていただきたい。柔軟に対応していくのがよいと思う。

<木曾委員>

市長質疑の中でも少し意見があったが、大河ドラマ館のチケットを1枚ずつ渡した。親になぜ渡さないという話もあった。そこは、やはり行政の狙いがあり、子どもだけでは行けないので、親も一緒についてきてもらう。できるだけそこは有料で来ていただく。このようなことを言うと失礼かもしれないが、誘い水として、子どもたちにその券を配布したのではないか。この予算

については、一般財源から出しており、ふるさと納税でも何でも無い。また、ちょうど新型コロナウイルスの影響で、子どもたちが休みになった。今、授業がストップしている状況で、4月の授業がどうなるかについて心配される中、この事業を推進することが本当によいのかという議論があった。私はいまだに心配している。本当にこのようなことをやっているとよいのか。子どもたちをバスに乗せるが、換気が悪いかも分からない。そういうところに、集団で連れていくが、何をしているのか。我々も、そのような予算を認めたということになることを懸念している。子どもたちの安全や、教育、学習の確保を考えると、今回の事業については、本当に慎重になり、中止も含め、この附帯決議にもあるように、柔軟に対応していかなければならないと思う。

<三上委員>

学校教育の授業では、例えば視察や指導主事訪問という行事もあるが、教科の指導目標を訂正しながらきちんと書き、行政からこういう目標でなければいけないと言われながら1つの授業をつくっている。行政はそこまでやっている。その一方で、昨日のようなことで、すでにチケットを配っているが、ものすごいギャップもある。市の重点かもしれないが、学校の中でかなり苦勞し、授業時間数もない中で、いろいろなことが非常に安易に持ち込まれている。自分は経験者でもあるので、本当にやめていただきたいと思う。それほど簡単なものではないと言っておきたい。

<赤坂委員>

私はこのときには質疑していなかったが、結局は組織運営の甘さというか、ワンマンでやられているのか分からないが、そういういい加減なことではないのか。私としては、あんな時点でもうアウトである。ほかでもそういうことがいっぱい行われる可能性もある。そうすると、組織力を疑うことになる。

<藤本委員>

今、木曾委員が言われたように、最初に子どもに入場券を渡したのは観光だと思ふ。子どもに渡すと、大人も一緒に券を買ってついてくることになる。例えば、1,000枚配ると、親がついてくればその倍になる可能性がある。入場者数もぐっと増えるという目的があったと思うが、それがちゃんとした連携もない。教育委員会は、光秀の歴史を大河ドラマ館で子どもに見せてやりたいということであるが、その連携がまったくとれていない。市長も知らないということである。この事業を実施してもよいのかということになると、新型コロナウイルスや社会の状況も見極めた上で、中止も含めて柔軟に対応することまで譲歩して書いていただいている。予算も削り、もう一度やり直せというところまで、いけばいいのではないか。今後はきちんとした目的と、行政の縦の連携をしっかりとした上で企画するのであればよいが、思いつきや行き当たりばったりで予算を組むのはよくない。しかし、この事業自体を廃止するものでもないと思うので、その辺は少し議論があると思う。

<三上委員>

産業建設分科会の案件で少し気になることがあり、この後、討論する関係で、委員の意見を少し聞いておきたい。産業建設分科会委員長報告の中で、一般会計予算の観光推進経費について、予算を計上し過ぎだという反対討論があった。亀岡光秀まつり事業補助経費は例年200万円であるが、577万2,

000円と3倍近くになっている。これは、ディズニーリゾートパレード分を含んでいると思うが、その議論の様子を委員に聞きたい。状況が変わっているので、重く見ないといけないと思う。東京ディズニーリゾートは、4月の初めくらいまで閉園する。春休みにディズニーランドに子どもたちと行く計画をしていた人が、亀岡市にもたくさんおられると思う。この近くで、パレードを見られるとなると、恐らくすごく人が殺到する。亀岡市や観光協会等、いろいろなホームページを見ていると、亀岡光秀まつりの武者行列自体はいつもと同じ時間に大本を出発し、途中で休憩して、また行くというものである。コースは少し変わるそうだが、ディズニーリゾートパレードは、4時か4時半から行われる。これに、警備等のボランティアを50人ほど募集されている。そこにキッズダンスも募集されている。市内でキッズダンスをしている子どもは、パフォーマンスを一緒にやる。2時に集合し5時くらいに解散になる。本来、亀岡光秀まつりのコンセプトとして、武者行列を盛り上げていくことを考えるときに、若い子育て世代は、恐らく亀岡光秀まつりや武者行列には何の興味もないのではないか。1時から武者行列をして、5時までずっといるかといえ、子どもの準備の関係もあり、4時から集中すると思う。亀岡光秀まつりや明智光秀の顕彰をしている人は、一体どう思われるのか。予想もしない人が来ることが考えられる。予算編成したときと比べて状況が変わっており、すんなりいくのか心配している。産業建設分科会の中で、どのような議論があったのか聞きたい。

<福井委員長>

本来であれば、産業建設分科会委員長報告のときに質疑いただきかった。委員間討議に関することではないが、菱田分科会委員長に、三上委員が言われた経過について聞きたい。

<菱田委員>

例えばキッズダンスを募集されていることについては、説明も質疑もなかった。このディズニーリゾートパレードは、大変多くの人に来られるので、安全対策が必要だという議論はあったが、それ以上のものはなかった。

<木曾委員>

私も委員長が整理していただいたように、分科会で質疑するのが本来だと思うが、今、認めていただいたので、言わせていただきたい。皆さんがそれがないがしろにして、審査されたということではない。新型コロナウイルスの関係で、5月3日に本当に間に合うのかについては、非常に難しい状況になっていると思う。この予算の執行については、どの時点でどういう判断をするかについては、なかなか難しい。警備関係の予算も確保しているので、難しいところがある。一概にこの部分の予算を外すことになるのかについては、非常に難しいと思う。しかし、実際に実施できるかといえ、今の状況でも難しいと思う。この事業と亀岡光秀まつりをやることについては、タイムラグがあるが難しい状況にある。高槻市でこのディズニーリゾートパレードを実施されたときに、将棋倒しになって、子どもがけがをされた。高槻市の場合、道路が広かったが、亀岡の場合は狭いので、子どもたちが見に来るとなれば、道路の半分くらいは占拠してしまうので、警備員の力だけで本当にできるのかという心配はある。うまくやってもらえれば一番よいが、難しい部分があることは確かだと思うので、事業執行に当たっては、本当に慎重に

していただきたい。

<赤坂委員>

産業建設分科会で疑問があったのは、時間帯や道路について、オリエンタルランドが指定してくるということである。この坂では、人形が出てくるので危ないとか、いろいろな制約があり、結局、亀岡光秀まつりとは別に使えないかと話をしたが、それはできないとのことである。既存の祭の中の1つの応援のような形である。高槻市では、高槻まつりの中でやったが、どうしてもそれを離すことができないということであった。理事者は、残りの金額は指定されたガードマンに使うことになると言われた。セレマから駅に行って、そこから南郷公園まで真っすぐ行くと聞いている。それが30分ぐらいである。キッズダンスのことも、前に聞いていたのだが、新型コロナウイルスの影響でなくなるかもしれない。計上だけはしているという話であった。また、道路、交通対策も、きちんとするということがあったので、そのままにしていた。

<木曾委員>

この5月までのイベントや事業については、新型コロナウイルスの関係もあり、事業を中止せざるを得ない部分がある。この予算を認めたとしても、出てくる可能性があるので、そういうことも含めておかなければいけない。突発的なことであり、めったにあることではない。私も経験上ない。今度の審査については、そういうこともあり得る前提で、審査しなければいけないと思っている。

<藤本委員>

赤坂委員と木曾委員から話があったとおりでである。産業観光部からすると、亀岡光秀まつりに組み入れて、ディズニーランドのパレードを呼ぶことにより、たくさんの人に来てもらい、大河ドラマ館の入館者数も増やしたいという思いで、一生懸命に取り組んでいる。ディズニーとも交渉し、それに基づいて組んだ予算である。新型コロナウイルスにより、このような状況になるとは思ってもいなかった。結果としてこうなったので、執行することを前提に、状況を見て中止になることもやむを得ないと思う。

<三上委員>

心配事はたくさんある。亀岡光秀まつりを盛り上げると言いながら、結果として、武者行列のときに、いつもより減った中で、4時から集中するとなると気の毒だと思う。本来のコンセプトとして、大河ドラマ館にたくさん来てもらえばいいと思う。亀岡光秀まつりを大事にされている方からすると、どうなのかという思いがある。ホームページを見ていると、亀岡市も13日付けで更新し、新型コロナウイルスによりどうなるか分からないが、一応キッズダンスも募集されている。子ども連れの方や保護者も含め、そちらに集中すると思う。私は武者行列も大事だと思っている1人であり、何か残念な気がする。

<木曾委員>

武者行列とディズニーだけでなく、様子がおかしくなってきたのが、オリピックである。亀岡市がターゲットイヤーにやろうとしていたことに影響してくるので心配する。いろいろなことが、全部新型コロナウイルスでなくなる可能性が出てきた。私も気持ちよくこの予算を通して、ターゲットイ



ヤーを生かせることを予想していたが、オリンピックの開催まで不安になってくる。日本では収束したとしても、外国から来てくれなければ、オリンピックを開けない。ターゲットイヤーを本当に1年ずらさなければいけないことを心配する。今の議案に対して、粛々と臨む必要があると思う。

<三上委員>

委員長や木曾委員の指摘はもつともである。取り上げていただき感謝する。

<福井委員長>

これで委員間討議を終結する。一旦休憩し、会派会議を実施していただきたい。休憩後は、討論、採決を行う。

<休憩 14:35～15:00>

### (3) 討論

<三上委員>

一般会計予算に賛成しかねる。見通しの甘さや不要不急のものも含まれているという思いは拭い去れない。市民福祉増進のためのものが含まれていることは理解している。財政の厳しさ、社会情勢の不安定な中、しっかりと精選して、使うべきところには使って、取捨選択していくという点では考えていただきたいことがある。霧の芸術祭、ふるさと学習、観光については、できれば前向きな組替え修正案を検討して、原案に反対する。

<赤坂委員>

一般会計予算に賛成する。本市にとって65周年の年であり、ターゲットイヤー幕開けの年である。府立京都スタジアムの竣工、麒麟がくる京都亀岡大河ドラマ館のオープン、本市全体のにぎわいの活性化の拠点ができており、本市の魅力を幅広く発信できる予算となっている。将来にわたり持続可能な財政運営を図ることをもとに編成され、市税は100億円を見込んでいる。ふるさと寄附金増収を見込んだ財源確保となっている。歳出面では、災害や安全対策、地域の活性化、子育て、児童生徒の教育関係の整備のための予算が編成されており、賛成する。

<小川委員>

一般会計予算に賛成する。令和2年度は亀岡市にとって、ターゲットイヤー、ネクストステージに向かう重要な年である。予算特別委員会審査過程で市長質疑を踏まえ、健康・観光・環境施策でバランスのとれた市民福祉増進につながる予算が計上されている。

<藤本委員>

一般会計予算に賛成する。330億4100万円、前年度比0.8%の減額予算となっている。財政状況厳しい中、市税収入も100億円をキープし、積極的かつ大胆な予算案である。将来にわたって持続可能な財政運営を図ることを基本に、市民に真に重要かつ優先度の高い予算執行を期待し、賛成する。

15:10

### (4) 採決

第1号議案（一般会計）

賛成多数（反対：長澤、三上、田中、並河）

第2号議案（国保特別会計）	全員賛成
第3号議案（休日診療特別会計）	全員賛成
第4号議案（介護保険特別会計）	全員賛成
第5号議案（後期高齢特別会計）	全員賛成
第6号議案（土地取得特別会計）	全員賛成
第7号議案（曾我部山林特別会計）	全員賛成
第8号議案（水道事業会計）	全員賛成
第9号議案（下水道事業会計）	全員賛成
第10号議案（病院事業会計）	全員賛成
第11～40号議案（30財産区）	全員賛成
附帯決議案（一般会計）	全員賛成

### （5）指摘要望事項

<福井委員長>

各分科会からの指摘要望事項はなかったが、全体会として、特に指摘要望事項とする内容はあるか。

（なし）

## 2 その他

### （1）予算特別委員長報告について

<福井委員長>

予算特別委員長報告については、本日の特別委員会全体会の冒頭に、各分科会委員長から報告いただいた内容で、予算特別委員会の正副委員長と、各分科会委員長との協議により、全体会の委員長報告として作成する。そして、3月24日の予算特別委員会において、報告・確認するので了承いただきたい。その他、特にこの委員長報告に盛り込むことはないか。

<木曾委員>

新型コロナウイルスがパンデミックになった。各般にわたり議論があったようであり、この内容も含め、予算執行にあたっては十分踏まえた中で、保留も含めた内容を付け加えていただきたい。

<福井委員長>

今の木曾委員の意見については、私としても考慮したいと思うが、異議はないか。

（異議なし）

<福井委員長>

正副委員長及び各分科会委員長に一任いただきたい。

—全員了—

### （2）議会だよりについて

<福井委員長>

議会だよりの記事掲載について意見はないか。

（意見なし）

<福井委員長>

正副委員長及び分科会委員長に一任いただくこととする。

<事務局長>

第47号議案について、市長から訂正の申し出があった。これを受け、明日午前9時から議会運営委員会、会派会議、本会議を経て、環境厚生常任委員会を順次開催いただく。

<福井委員長>

本日はこれで、予算特別委員会全体会を散会する。

15 : 15